

西濃地区研究テーマ

「持続可能な社会を構築するために、
家庭・地域生活を主体的に創造する
生徒の育成」

地区代表校

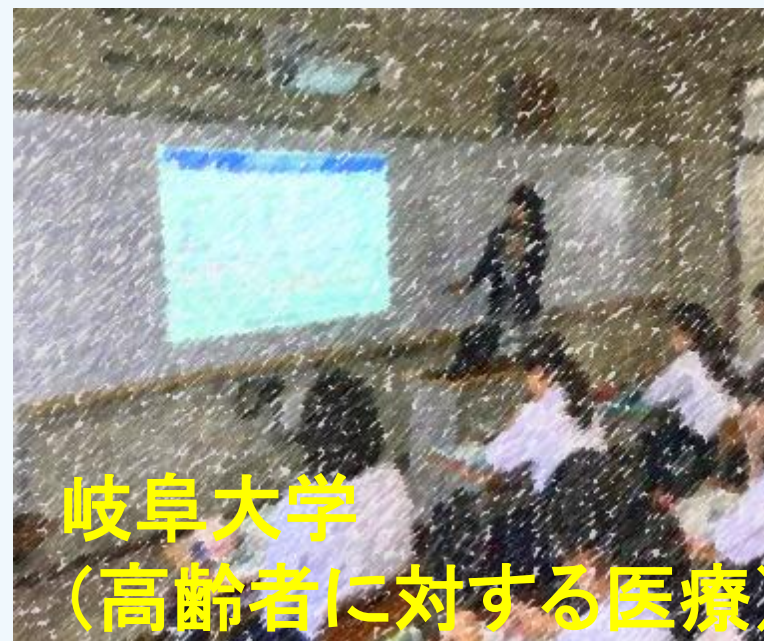
大垣東高等学校

研究発表校

大垣南高等学校

下野 恵理子

総合的な探究の時間
進路ガイダンス
キャリアカウンセリング
の充実



本校の学校家庭クラブ活動



↑ 廃品を利用しておもちゃを作り、園児と交流

↓ 防災についてパネルシアターで園児に説明



↑ 高齢者施設で合同避難訓練

本校の家庭科の学び

家庭の
科目

1 年次全員履修

「家庭基礎」 2単位

3 年次選択履修(私文クラス)

「保育基礎」 3単位

1 年 生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	現代の 国語		言語文化			公共			数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	芸術	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ										家庭基礎	総合	L H R		

本発表の内容

1 研究のねらい

- ・本校の防災に関わる取り組み
- ・研究テーマについて

2 研究の実施計画

- ・地区研究の歩み
- ・本校の研究計画

3 研究実践

- ・地区研修会
- ・本校の研究実践

4 まとめと今後の課題

Ⅰ 研究のねらい

研究領域：生活の科学と文化（2年目） → 住生活

地区研究テーマ：

「持続可能な社会を構築するために、家庭・地域生活を主体的に創造する生徒の育成」

本校研究テーマ：

「いざという時に自らの命と学校・地域の安全を守ろうと取り組むことのできる生徒の育成」

「SDGs17の目標」より

目 標 : 11 住み続けられるまちづくりを

ゴール : 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する
誰もがずっと安全に暮らせて、
災害にも強いまちをつくろう



「本校の具体的な目標」は…

いつか起こり得る災害を**自分事**として捉え、**自助・共助・公助**の意味を正しく理解することを通じて、いざという時に災害から**自分の命**と暮らしを守るとともに、**地域に貢献**しようとする行動力を育てる

2 研究の実施計画（地区研究のあゆみ）

6月 研究テーマ・研究内容の確認

8月 地区研修会（会場：大垣東高等学校）

【演題】 「学校にいる時に災害が起こったら
学校が避難所になったら」講義およびワーク

【講師】 清流の国ぎふ防災・減災センター
コーディネーター 兒玉 靖 氏

【研究協議】 各校の防災に関する取り組みの紹介

10月 研究授業（会場：大垣南高等学校）

【研究授業】 「持続可能な住生活を実現するための
防災について考える」

【研究協議】 研究授業について・各校の防災取り組み例

2 研究の実施計画（本校の研究計画）

家庭科の授業 「家庭基礎」	<ul style="list-style-type: none">・DVD「災害から命と暮らしを守る」を視聴・住んでいる地域のハザードマップの確認及びマイ・タイムラインの作成。・学校で災害に遭遇した時を想定した研究授業
減災力テスト	1 学年(240名)対象に 2 回実施（学習前後）
防災出前講座 (学年LHR)	中部地域づくり協会より講師による講演 及びVRを用いた風水害の浸水疑似体験
家庭クラブによる啓発活動	文化祭(9月)にて「学校地域の自然災害と防災食」 をテーマとした企画展示

西濃地区家庭・福祉担当者会議（夏季研修会）

講師：清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター 児玉 靖 氏

演題：「学校にいる時に災害が起こったら 学校が避難所になったら」

講義およびワーク



西濃地区家庭・福祉担当者会議（夏季研修会）

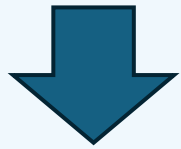


議論した課題

- ①授業中に南海トラフ巨大地震が発生したらどうするか？問題点は？
- ②学校が避難所になった場合何をするか？問題点は？

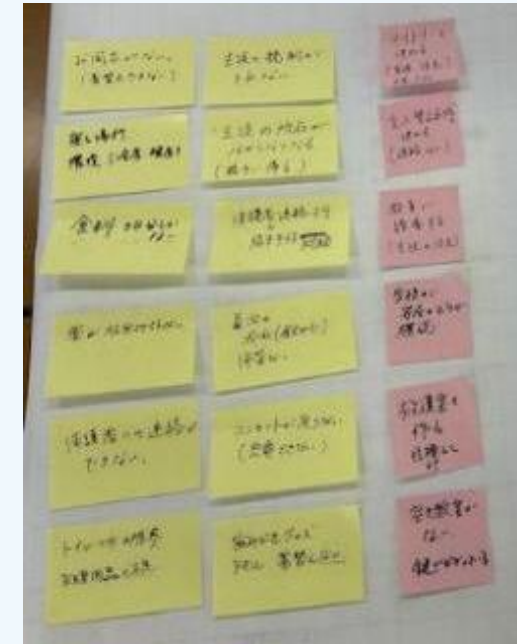
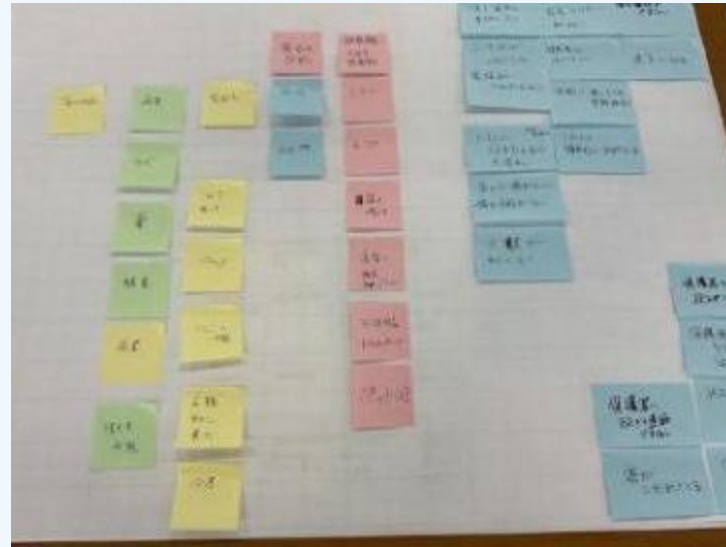
西濃地区家庭・福祉担当者会議（夏季研修会）

4つに分かれて
グループワーク
を実施



意見を交流・集約

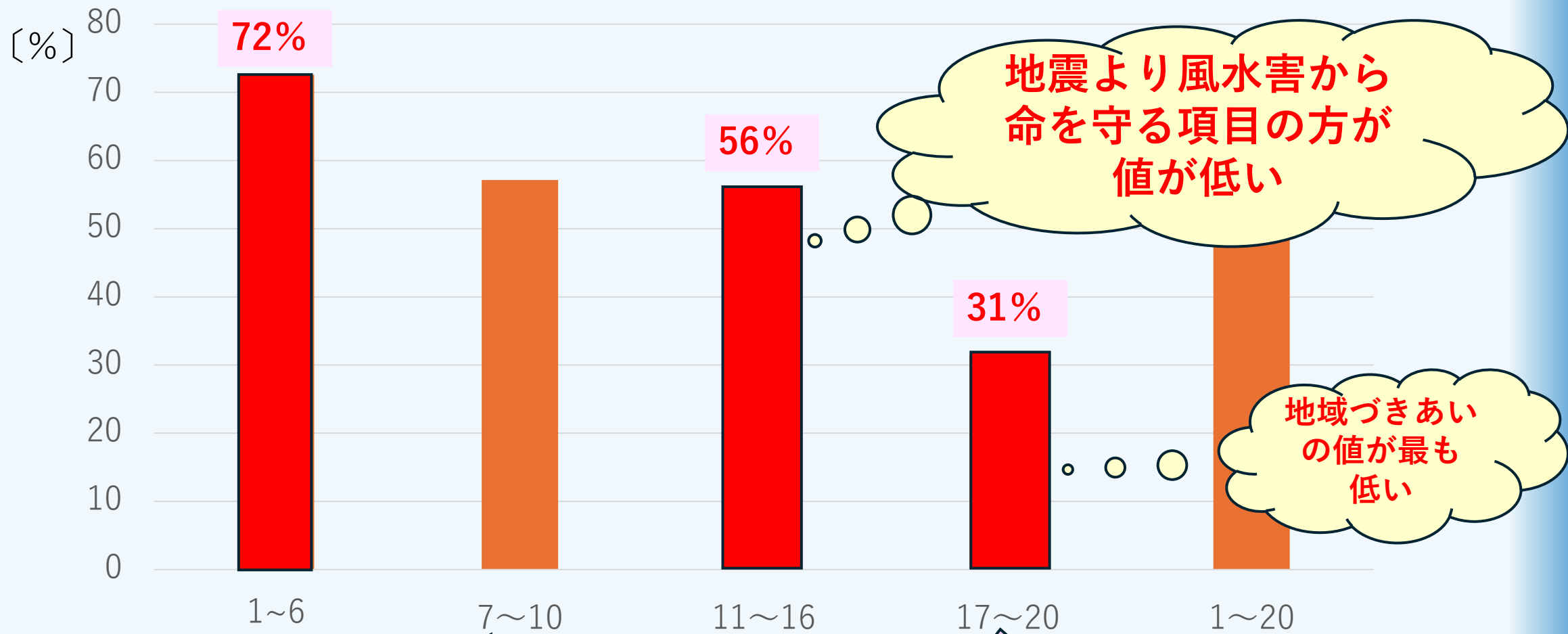
自助の原則
の徹底が
大切！



3 本校の研究実践

	「家庭基礎」の授業内	「家庭基礎」の授業外
6月	減災力テスト（1回目）	
7～8月	ホームプロジェクト	
9月		防災講座（家庭クラブ）
10月	住生活の授業 （研究授業）	防災出前講座（LHR）
11月	減災力テスト（2回目）	防災食（家庭クラブ）
12月		防災講座（総合探究） 施設と合同避難訓練（家庭クラブ）

減災カテスト第1回目（学習前）結果



地震から命を守る

地震直後の対応

風水害・土砂から命を守る情報収集や判断

災害から命を守る近所づきあい

項目全体の平均値

地震より風水害から命を守る項目の方が値が低い

地域づきあいの値が最も低い

単元の指導計画（一部抜粋）

時間	【ねらい】・学習活動	重点	記録	備考（・は評価規準（ ）は評価方法）
	【単元を貫く課題】持続可能な視点から安全や環境に配慮した住生活の課題に目を向け、その課題の解決策を地域・社会との関わりを踏まえて考えよう。			
1	1 「住まい」とは 【ねらい】住まいの空間や役割について理解する。 ・住まいの4つの生活空間、3つの役割について理解し、自分の家を例に住まいの空間や生活行為、役割を考える。	知 ①	○ ★	・住宅の役割について科学的に理解し、安全な生活を送るための知識を身に付けている。（ワークシート・定期考査）
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 本 時	2 安全な住まい 【ねらい】日本が災害大国であることを自覚し、地震や大雨など災害に対する備えについて考え、いざという時に対応できる行動力を身に付ける。 ・家庭内事故や火災、犯罪を防ぐために生活の中でできる備えについて考える。 ・DVD「災害から命と暮らしを守る」の視聴を通して様々な自然災害とその備えについて知る。 ・自分の住む地域で起こりうる自然災害の特徴と生活における対策の仕方を調べる。 ・持続可能な住生活を送るために在校時の防災・減災について考えることを通して、いつどこで起こるか分からない災害に対する備えの重要性を意識して行動できるようにする。	思 ① 知 ② 思 ② 思 ③ 態 ①	○ ★ ○ ★ ○ ○	・防犯、耐火、耐震などに配慮して安全に住むことができる住居について考えることができる。（ワークシート・定期考査） ・災害に対する正しい知識と対処法を身に付けている。（ワークシート・定期考査） ・住んでいる地域のハザードマップを確認してマイ・タイムラインを作成し、防災への備えについてまとめたり、発表したりすることができる。（ワークシート） ・いつか起こり得る自然災害を自分事として捉え、自助・共助・公助の意味を正しく理解することを通して、いざという時に災害から自分の命と暮らしを守るとともに地域に貢献しようとしている。（ワークシート・行動観察）

【単元を貫く課題】
持続可能な視点から安全や環境に配慮した住生活の課題に目を向け、その課題の解決策を地域・社会との関わりを踏まえて考えよう。

2 安全な住まい
【ねらい】
日本が災害大国であることを自覚し、地震や大雨など災害に対する備えについて考え、いざという時に対応できる行動力を身に付ける。

- ②家庭内事故や耐火・耐震に配慮した住居
- ③災害に関する動画視聴
- ④自宅のハザードマップ・マイタイムラインの作成

研究授業のねらい（目的と方法）

本時の主題：

持続可能な住生活を実現するための防災について考える

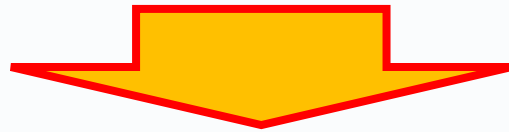


本時の目標：

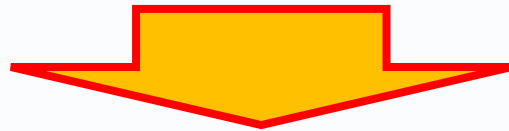
在校中に大きな自然災害(水害)に遭った場合どうするか考えることを通して、いつどこで起こるか分からない災害に対する備えの重要性を意識して行動できるようにする

研究授業の主な流れ

在校中に突発的な豪雨が発生し、床上浸水した場合を想定（電気・水・ガスが止まった場合）



グループで意見交流



MetaMoJiを活用して相互に交流

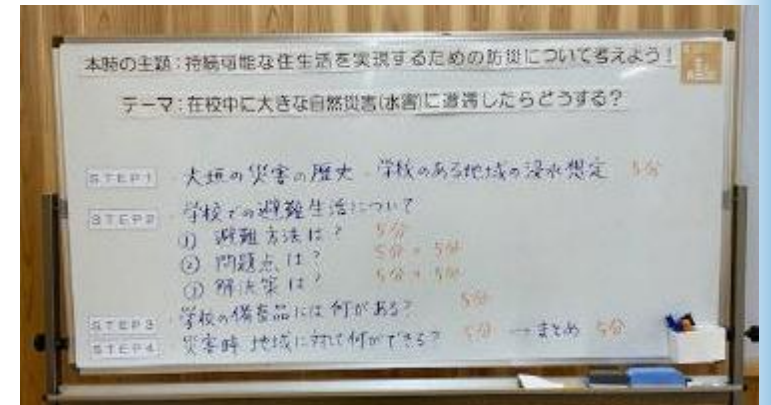
研究授業の具体的な流れ

STEP1: 大垣の災害の歴史・学校のある地域の浸水想定 (5分)



STEP2: 学校での避難生活について

- ① 避難方法は? (5分)
- ② 問題点は? (5分 + 5分)
- ③ 解決策は? (5分 + 5分)



STEP3: 学校の備蓄品には何がある? (5分)



STEP4: 災害時、地域に対して何が出来る? (5分) → まとめ (5分)

研究授業（令和7年10月27日）

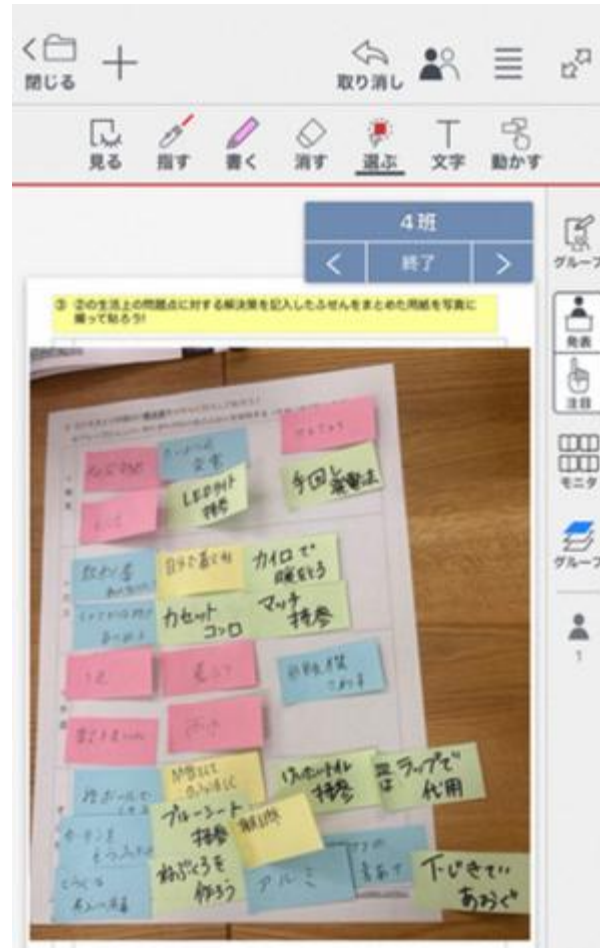
- ・ **本時の主題**：持続可能な住生活を実現するための防災について考える
（5時間目／9時間）



「大垣防災ハンドブック」
を1人に1冊ずつ配付

「大垣防災洪水ハザード
マップ」をグループに1部
ずつ配付

研究授業の工夫 (MetaMoJiの活用)



グループのワークシートを撮影
↓
MetaMoJiに貼りつけスクリーン
に映しクラス全体に共有する

ハイブリッド方式

誰が記入したか分かり
やすいよう付箋の色を
出席番号順に指定

研究授業後の取り組み (MetaMoJiの活用)

① ② ③ ④ ※お題番号が1番小さい人が青、2番目が黄、3番目が緑、4番目がピンク

③ ②生活上の問題点に対する解決策を、+から「ふせんを追加」を選択し自分の意見を記入して、下の表に貼ってグループでまとめよう!

× 電気	<ul style="list-style-type: none"> 扇を巻いたり取りだしたりして室温を上げる 扇が壊れたら修理する モバイルバッテリーや充電し充電機を使う 携帯ラジオをあらかじめ用意
	<ul style="list-style-type: none"> エアコンの温度を上げる 防寒グッズなどを使用する
× ガス	<ul style="list-style-type: none"> ガスが止まらなくなるようにガス漏れを確認する ガスコンロが壊れる
	<ul style="list-style-type: none"> ガスが止まらなくなるようにガス漏れを確認する ガスコンロが壊れる
× 水道	<ul style="list-style-type: none"> 節水トイレ 排水口を詰まらせない 排水口を詰まらせない 排水口を詰まらせない
	<ul style="list-style-type: none"> 排水口を詰まらせない 排水口を詰まらせない
その他	<ul style="list-style-type: none"> 避難ルートを事前に確認しておく 避難ルートを事前に確認しておく
	<ul style="list-style-type: none"> 避難ルートを事前に確認しておく 避難ルートを事前に確認しておく

① ② ③ ④ ※お題番号が1番小さい人が青、2番目が黄、3番目が緑、4番目がピンク

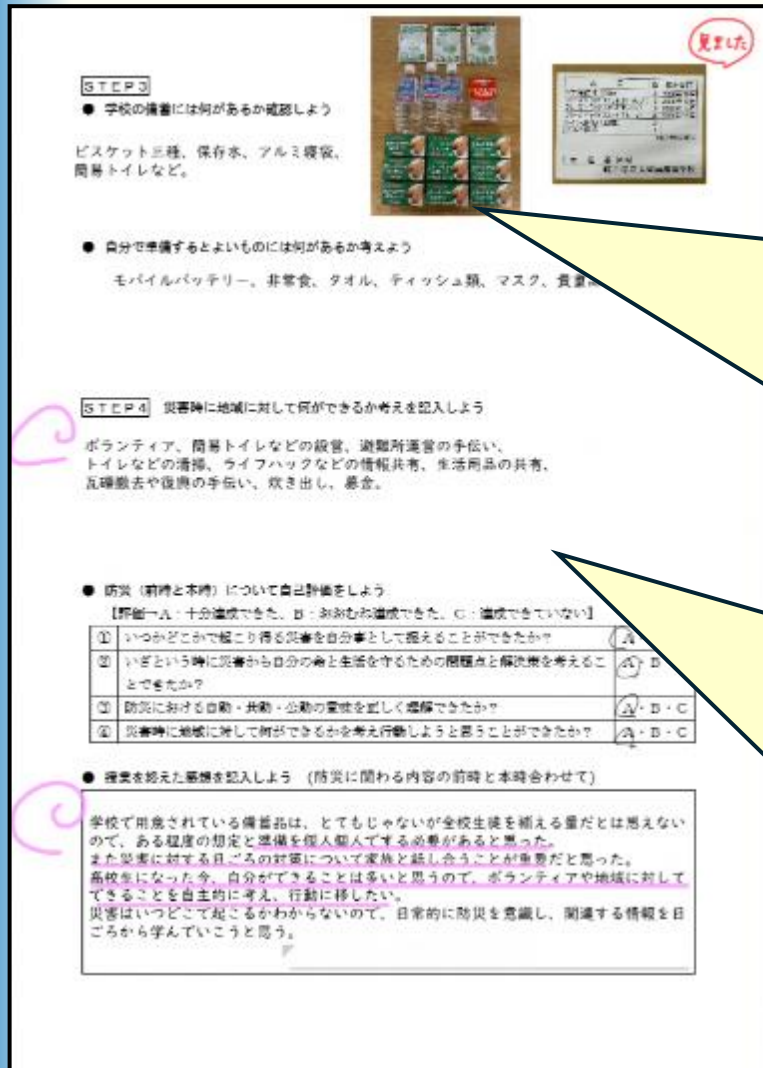
② 学校での避難について生活上の問題点を、+から「ふせんを追加」を選択し自分の意見を記入して、下の表に貼ってグループでまとめよう!

× 電気	<ul style="list-style-type: none"> 避難に時間がかかりすぎる エアコンが壊れる、壊れやすくなる 電気が使えず、暗くなるため、夜間の作業などが難しくなる
	<ul style="list-style-type: none"> ガスが止まらなくなることで冷房や暖房が使えなくなる ガスコンロが壊れる
× ガス	<ul style="list-style-type: none"> ガスが止まらなくなることで冷房や暖房が使えなくなる ガスコンロが壊れる
	<ul style="list-style-type: none"> ガスが止まらなくなることで冷房や暖房が使えなくなる ガスコンロが壊れる
× 水道	<ul style="list-style-type: none"> 飲料水の確保が難しくなる トイレの水を流せない トイレの水を流せない
	<ul style="list-style-type: none"> 飲料水の確保が難しくなる トイレの水を流せない
その他	<ul style="list-style-type: none"> トイレの水を流せない トイレの水を流せない
	<ul style="list-style-type: none"> トイレの水を流せない トイレの水を流せない



MetaMoJiの付箋機能を使ってグループ交流
 ↓
画面に集中してしまい意見の活発化に欠ける

プリント記入例



STEP3：学校の備蓄品

ビスケット三種、保存水、アルミ寝袋、簡易トイレ

自分で準備するとよいもの

モバイルバッテリー、非常食、タオル、ティッシュ類、マスク、貴重品

STEP4：地域に対して何ができるか

ボランティア、簡易トイレなどの設営、避難所運営の手伝い、トイレなどの清掃、ライフハックなどの情報共有、生活用品の共有、瓦礫撤去や復興の手伝い、炊き出し、募金。

プリント記入例

STEP3

- 学校の備蓄には何があるか確認しよう

ビスケット三種、保存水、アルミ缶袋、簡易トイレなど。



- 自分で準備するとよいものには何があるか考えよう

モバイルバッテリー、非常食、タオル、ティッシュ類、マスク、貴重品

STEP4 災害時に地域に対して何ができるか考えを記入しよう

ボランティア、簡易トイレなどの設置、避難所運営の手伝い、トイレなどの清掃、ライフハックなどの情報共有、生活用品の共有、瓦礫撤去や復興の手伝い、炊き出し、募金。

- 防災（前時と本時）について自己評価をしよう

【評価→A：十分達成できた、B：おおむね達成できた、C：達成できていない】

① いつかどこかで起こり得る災害を自分事として捉えることができたか？	A・B・C
② いざという時に災害から自分の命と生活を守るための問題点と解決策を考えることができたか？	A・B・C
③ 防災における自助・共助・公助の意味を正しく理解できたか？	A・B・C
④ 災害時に地域に対して何ができるかを考え行動しようと思うことができたか？	A・B・C

- 授業を終えた感想を記入しよう（防災に関わる内容の前時と本時合わせて）

学校で用意されている備蓄品は、とてもじゃないが全校生徒を補える量だとは思えないので、ある程度の想定と準備を個人個人とする必要があると思った。また災害に対する日頃の対策について家族と話し合うことが重要だと思った。高校生になった今、自分ができることは多いと思うので、ボランティアや地域に対してできることを自主的に考え、行動に移したい。災害はいつどこで起こるか分からないので、日常的に防災を意識し、関連する情報を日ごろから学んでいこうと思う。

授業を終えた感想：

学校で用意されている備蓄品は、全校生徒を補える量だとは思えないので、ある程度の想定と準備を**個人個人である必要がある**と思った。

⇒ 自助

災害に対する日頃の対策について**家族と話し合う**ことが重要。

⇒ 共助

高校生の自分ができることは多いと思うので、**地域に対してできることを考え、行動に移したい**。

⇒ 公助

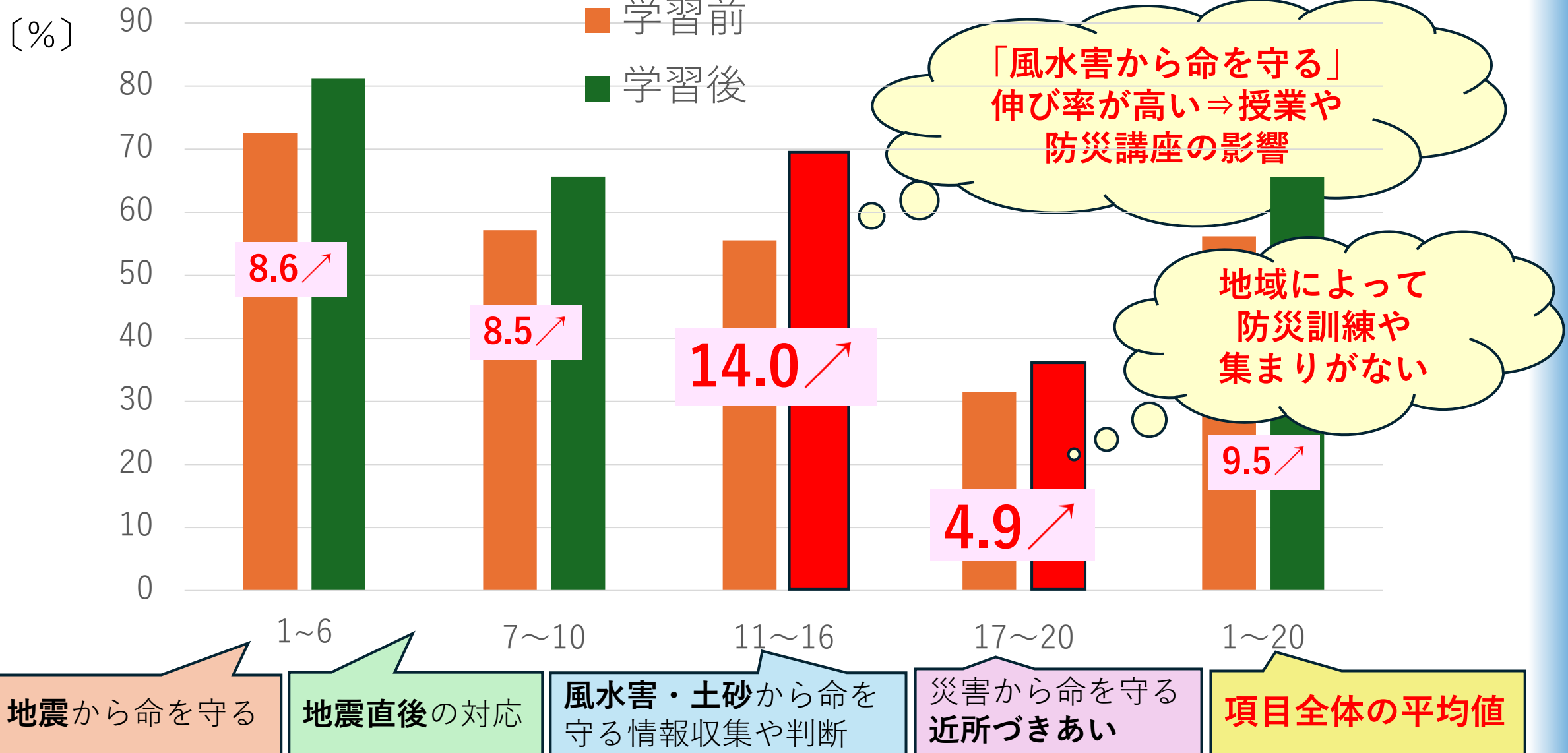
授業後の生徒による自己評価

[%]

	評価項目	A	B	C
①	いつかどこかで起こり得る災害を 自分事として捉える ことができたか？	91	9	0
②	いざという時に災害から 自分の命と生活を守る ための問題点と解決策を考えることができたか？	82	18	0
③	防災における 自助・共助・公助 の意味を正しく理解できたか？	85	15	0
④	災害時に 地域に対して何が出来るか を考え行動しようと思うことができたか？	88	12	0

→自分事としてとらえることができた項目が最も多い

学習前と後の減災カテストの結果比較



3 家庭基礎の授業外での取り組み



4 まとめと今後の課題

- i) 多くの生徒が防災を「**自分事**」として考えられるようになった
- ii) **身近な家庭生活**⇔**公共の場での生活**を関連付けて考えることができた
自助・共助・公助の意味を正しく理解できた
- iii) 地域のために行動する意思のある生徒が活躍できる機会を**学校家庭クラブ活動**で作っていききたい
⇒ 学校と地域で持続可能な体制づくり

4 まとめと今後の課題

IV) 防災教育を様々な角度から行う必要性

「総合的な探究の時間」「LHR」と連携して外部講師を招聘するなど、**教員と生徒が共に**防災の専門的な技術や知識の習得。

⇒ **実践力・行動力**を養う

V) 校内でチームを作り、問題意識と対応策について取り組む**持続可能**な体制作りが必要。「危機管理マニュアル」について全教員の共通理解。